

日 次

第一章 東十二丁目の地名 村里と地名、島村、東十二丁目、向十二丁目、町村合併と市制施行	1
第二章 原始時代 地球と人類	9
第一節 旧石器時代 水河時代、石器の使用	10
第二節 縄紋時代	11
第三節 弥生時代 土器作り、堅穴住居、食生活、いろいろな道具	13
第四節 埋蔵文化財と発掘調査 遺跡の発掘	14
第五節 東十二丁目の遺跡 土器、石器の出土	16



東岡公園観音像



歡喜寺



神明社



熊野神社

第三章 古代

第一節 古代のみちのく

概説

第二節 古墳時代年表

第三節 古墳の時代

豪族の出現と墓、古墳の種類と副葬品、熊堂古墳群、江釣子古墳群、土師器と須恵器

第四節 辺境の征討と開拓の北進

陸奥国、蝦夷、蝦夷の抵抗、村の開拓

第五節 奥六郡の支配

安倍氏の拝頭

第六節 前九年の役

安倍氏没落

第七節 後三年の役

一族私闘

第八節 平泉の文化

平泉と藤原氏、義経下向、藤原氏滅ぶ

第九節 村の伝承

照井庄誌史と系譜集録、島七家、島の照井氏系譜、五輪塔

第四章 中世

第一節 中世と地方の動き

鎌倉幕府と陸奥、南北朝の時代

第二節 奥羽の牧場経営

軍馬の育成、南部馬

第三節 中世年表

稗貫氏の発祥

稗貫の語源、稗貫氏

第五節 南北朝期の争乱

北条氏滅亡、北畠顯家奥羽に下る、奥羽勢に尊氏敗走、南北朝対立、顯信の活動
稗貫氏の動向

第六節 和賀の争乱、秀勝自害、鳥谷ヶ崎城に移る、広忠養子となる、小田原征伐に不参、和賀稗貫の一揆、稗貫氏滅亡、領主の余詫

第七節 和賀領の村々

永禄の検地、東十二丁目の所領

第八節 十二丁目城と十二丁目氏

十二丁目城、十二丁目氏

第九節 村の館跡

薬師館

第十節 照井氏考証

照井氏系譜、盛岡照井家系譜、島郷土誌の記録

第十一節 村の伝説と伝承

島の悪左衛門、照井沼、沼ノ御前、円満寺鐘の事、円満寺の鐘、沼頭の笠松、道翁と百味の味献上、小袋の地名、島の朝日、鶴月の老孤、旅僧と鶴

69 64

第五章 近世

第一節 近世社会と幕藩体制

概説

第二節 近世年表

第三節 南部藩

第四節 花巻城と北氏

北秀愛郡代となる、北松斎郡代を継ぐ、花巻城の夜襲、岩崎合戦

第五節 代官統治と通制

代官統治、通制、安俵高木通

第六節 東十二丁目の村役

村肝入役と老名役、組頭、その他の村役、歴代の村役

第七節 三ヶ村用水堰

104 96 90 86 84 81 79 79

開発と用水、三ヶ村用水堰の由来、用水堰の工事、用水堰の補修、運営組織の変遷、平野仁兵衛のこと

第八節 東十二丁目と新川普請

奥州街道下欠込む

第九節 洪水の苦難

度重なる洪水、対応の状況

第十節 村の凶作

凶作続く、災害の記録、書留の中から

第十一節 土蔵御改の事

天保の凶作、書留の中から

第十二節 百姓騒動

一揆発生の状況、坪役錢等反対、重税に反対、減税の願い上げ、用水堤普請出役に反対、再び堤普請出役に反対、和賀川普請の出役、御仮屋普請の出役、天保七年の強訴、鬼柳閑所越境、歩付高割反対、用水堤御普請出人足反対、高木外二ヶ村の開田計画

第十三節 照井沼の田丹し

田丹しのお尋ね

第十四節 村境論

論所の発端、論争の経過、解決へ

153 152

133 128 122 115 114

第十五節 村の検地と租税

検地の意味、太閤検地、近世の村の検地、天保の検地、検地結果の集計、知行所とその推移、村の租税、年貢高、御役金錢の上納、検見と修正

第十六節 社寺の中興

熊野神社、神明社、歓喜寺と東岡公園、島長根金比羅神社、兜神社、沼御前の堂、秋葉神社、馬頭觀世音、小袋稻荷神社、天満宮、不動明王堂、山の神社、牛頭天王宮、薬師堂、稻荷神社、虚空藏堂、大山祇神社、洗葉巻稻荷大明神、光嶋山威徳院萬川寺、寺跡

第六章 むらの民俗

第一節 民家

住家、居屋敷、ドンヅキ、棟上げ、かや葺の屋根

第二節 食生活

米作りが食えぬ米、野菜は豊富、副食物、行事食、調味料、救荒食物と調理

第三節 衣生活

着物、働き着の種類、故事の着装、衣料としての大麻

第四節 婚礼と葬儀

婚礼、葬儀

第五節 年中行事

216 213 209 207 199 199

生活のリズム

第六節 民間信仰

村の信仰、参りの佛、かくし念佛、講、路傍の祈り

第七章 近代

第一節 明治国家の確立から軍部支配の体制へ

概説

第二節 近代年表

第三節 明治維新と南部藩

領地没収、白石転封

第四節 行政機構の動き

めまぐるしい変遷

第五節 明治初期の村勢

管轄地誌から

第六節 平民氏称の公認

苗字を名乗る

第七節 学校教育始まる

学制頒布、小袋小学校開校、島小の歩み

第八節 地租改正と村の税額

270 263 262 256 250 249 246 243 243 222

185 157

地券の交付、村の経費	275
第九節 山林等の調査	278
山の所有、調査実施	284
第十節 官地借用	287
草地等官地になる、官地借用申請	292
第十一節 舟渡場	296
北上川を渡る	299
第十二節 五ヶ村合併	301
町村制施行、合併後の役職名	303
第十三節 日清戦争と日露戦争	306
日清戦争勃発、日露戦争開戦	309
第十四節 八甲田山の遭難	312
弔忠碑、遭難の状況	315
第十五節 消防の組織	318
村の自警、消防組の結成	321
第十六節 猿ヶ石発電所	324
発電所の建設	327
第十七節 事変の発端から戦争終結まで	330
満州事変、日中戦争、太平洋戦争、従軍者名簿から	333
第十八節 青年会の活動	320
島青年農会の発足、島青年報徳社と改称、島青年会となる、青年團活動	321
第十九節 婦人会活動	324
島良導婦人会発足、矢沢婦女会連合会創立、活動の概要、市婦協創立、島支部の活動	325
第八章 産業の発達	324
第一節 農業生産	324
藩の本領と生産高、東十二丁目の村高、經營基盤、戸数人口等の動き	325
第二節 稲作り	326
品種のうつりかわり、苗の育成、稻作作業の変遷、水稻生产力の向上、米価の推移	327
第三節 畑作	328
畑の面積と石高、畑の作物、生産の動態	329
第四節 其他の産業	330
馬産、養蚕、酒造技術の伝承、酒造と神祭り	331
第九章 現代（戦後）	341
第一節 戦後処理から民主的再建へ	347
概説	347
第一節 現代年表	349

第三節 農地改革

農地の解放指令

第四節 島区民会

区民会の発足、役員、事業概要

第五節 老後を豊かに

島後祭会誕生、後祭会の動き

第六節 台風襲来

台風と災害

第七節 市制が布かれ花巻市となる

花巻市の沿革、市章、市の木と市の花、花巻市民憲章

第八節 島保育園

保育施設の開設、沿革概要、現況

第九節 土地改良事業

土地の基盤整備

第十節 北上川に堤防工事

矢沢堤防建設

第十一節 小学校の統合

統合新校舎建設

第十二節 新農業構造改善事業実施

371

370

369

366

364

362

360

359

355

353

村づくりの基盤整備

第十三節 工業団地造成

十社操業、体育館建設

第十四節 市水道施設

市水道に全戸加入

第十五節 道路網の拡充

進む道路整備

378

377

375

373

第十章 郷土の先人	378
先人の業績	
教育者 古川 忠栄	
石殖家 照井 亮次郎	
棟梁 藤原 金次郎	
仏師 鳩ノ与市郎	
医師 照井 亮藏	
人徳の士 高橋 武夫	
論客 佐藤 素一	
石碑に残る先人	